

# 【小施策評価(平成30年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	環境企画課	
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	千葉 信幸	内線 8410
小施策	20-1	自然の保護と活用	評価 シート 作成者	菅原 真理	内線 8411

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度に策定した自然環境及び歴史的環境保全計画に基づき、市域の自然環境調査を行う必要がある。また、玉山地域を中心に、自然環境及び歴史的環境保全条例に基づく環境保護地区などの新たな指定について検討する必要がある。</li> <li>自然環境及び歴史的環境保全条例に基づき指定している環境保護地区、保護庭園及び環境緑化地区について、所有者・管理者や地域の理解を得ながら管理していく必要がある。</li> <li>近郊自然歩道9路線について、ガイドマップを配布するとともに、環境部ホームページ上に詳細なコースマップや花暦、鳥暦などを掲載している。今後も適切な維持管理を行い、利用者の利便及び安全確保に努めるとともに、盛岡の豊かな自然環境を広く発信する必要がある。</li> <li>近年、ツキノワグマやニホンジカなどの野生動物が市街地にも出没するケースが増えており、市民の安全・安心の観点からも関係機関が連携して野生動物の適正な保護・管理を図り、生物の多様性を確保する必要がある。</li> </ul>	<p>盛岡が誇るうおいや安らぎをもたらす里山の緑、きれいな水や空気を生み出す森林、河川の清らかな水辺など、かけがえのない自然や多様な生物が生息する環境を適切に守り、次世代に引き継ぐとともに、自然に親しむ機会を増やし、より多くの人々が自然を感じられるような環境づくりを進める。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
身近な自然、森林・水源、その他(動植物)	自然が守られ、自然に親しむ機会が多くなる。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(令和元年度以降)
指標	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	評価を踏まえた取組の方向性	
指標① 近郊自然歩道設置総延長	km	↗	当初値 (H25) 46   R1目標値 51   R6目標値 51	<ul style="list-style-type: none"> <li>近郊自然歩道の問合せが多くなったことから、利用者が増加しているものと思われる。</li> <li>登山道を安全に利用してもらえるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近郊自然歩道ガイドブックを観光案内所に配置したり、環境学習講座参加者へ配布する等周知に努めたため。</li> <li>業務委託と市直営により、倒木や枝の排除、草刈り、案内板の補修等が実施されているため。</li> </ul>	<p>★ 生地域に近郊自然歩道を新設するためのルートや案内板のデザイン等を市と地元及び地域おこし協力隊で検討する。</p> <p>☆1 生地域の近郊自然歩道への案内板等の設置。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>合併して10年以上が経過したが、玉山地域の自然歩道新設が未だ進んでいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規ルートの選定、地元等からの意見の取り入れ等調整に時間を要するため。また、新設ルート上の案内板や新規パンフレット等の作成に予算の確保も必要であるため。</li> </ul>		
<p>問題点</p>			<p>問題の要因分析</p>			
指標② 市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される自然体験、自然との共生に係る環境教育、環境啓発事業等への参加者数	人	→	当初値 (H25) 174,000   R1目標値 174,000   R6目標値 174,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される自然体験、自然との共生に係る環境教育、環境啓発事業等への参加者数が目標値より上回っていることから、自然環境の保全や自然との共生についての意識を高めることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が身近に自然環境に親しむことができる場所・機会があるため。</li> <li>管理費用の補助の実施により、登山道が良好に管理されているため。</li> </ul>	<p>★ 登山道の維持管理に対する補助を実施する。</p> <p>★ 近郊自然歩道については、草刈り業務や巡視の業務委託、直営による保守管理を継続して行なう。</p> <p>★ ホームページ等にイベントの情報を掲載するなど、情報発信の継続に努める。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>H27からH28にかけて3万人程度減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>盛岡市動物公園の来園者数の減少により、イベントへの参加者数が減少したため。</li> <li>H29年度は、小学校のイベント参加人数、動物公園の来園者数、農業まつりの参加者数が増加したため、H28年度に比べて人数は回復した。</li> </ul>		
<p>問題点</p>			<p>問題の要因分析</p>			
指標③ 市域における山林・農地等の面積	ha	→	当初値 (H25) 36,242.9   R1目標値 36,262.9   R6目標値 36,262.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>市域における山林・農地等の面積が維持できていることから、森林においては二酸化炭素の吸収源となり地球温暖化防止や治山治水機能などが発揮されており、農地については保水能力の維持が図られているため、自然環境の保全に寄与している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な森林管理や農地管理が図られているため。</li> </ul>	<p>★ 継続して巡視・維持管理を行なっていくこと。</p> <p>☆1 自然環境等保全計画の保護区域等と景観計画や緑の基本計画等同じような条件のもとで保護・管理が行なわれている区域の整理を行い、より環境保全や生物の多様性について考察した計画としていく。</p>
			<p>特になし</p>	<p>特になし</p>		
<p>問題点</p>			<p>問題の要因分析</p>			

実績値の推移				実績の評価		評価を踏まえた取組の方向性 ★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
指標④ 近郊自然歩道に係る巡回・作業日数		単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	
当初値 (H25)	6	R1目標値	6	R6目標値	6	<p>・毎年、継続して直営での近郊自然歩道の巡視を行なうことで、近郊自然歩道に係る課題等を早期に発見し、解決につなげることができている。</p> <p>・巡視・草刈等を業務委託のみで行なっているのでは課題を見落とす可能性があるが、直営の巡視も実施しているため早期に課題を発見できている。</p>
				問題点	問題の要因分析	★ 継続して巡視・維持管理を行なっていくこと。
				・人員不足	・係員で巡視・維持管理作業を行なっているが、他の業務もあり多忙なため、自然歩道関係だけに十分な時間をさくことが難しい。	
指標⑤ 近郊自然歩道に係る従事者数		単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	★ 継続して巡視・維持管理を行なっていくこと。
当初値 (H25)	32	R1目標値	32	R6目標値	32	
				問題点	問題の要因分析	★ 継続して巡視・維持管理を行なっていくこと。
				・人員不足	・係員で巡視・維持管理作業を行なっているが、他の業務もあり多忙なため、自然歩道関係だけに十分な時間をさくことが難しい。	